ふるさとへぐり再発見

横穴式石室

7

横穴式石室は古墳の埋葬施設の1つで、その名のとおり横から出入りできる石組の部屋のことです。

古墳の主体部（埋葬施設）には色々な形態がありますが、平群谷の古墳では大部分がこの石室を使用しています。

横穴式石室は、図のように遺体（棺）を収める玄室（げんしつ）と通路にあたる羨道（せんどう）部分があり、閉塞（へいそく）部分を開閉することにより出入りすることが出来ます。

これにより、石室構築後に追葬することが可能で、古墳自体が個人墓から家族墓へと変わっていきます。

従来の埋葬施設では1人ずつに個別に造る必要がありましたが、横穴式石室では最初だけで良く便利なものでした。

追葬の人数は発掘調査をしないとわかりませんが、三里古墳では6人の埋葬がわかっています。

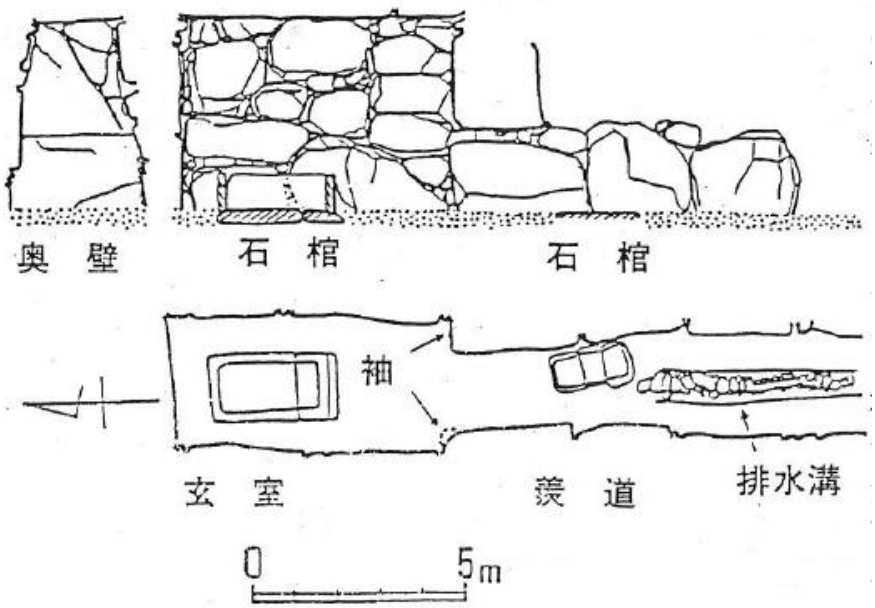
横穴式石室は玄室と羨道の接続部分、袖（そで）の形状から片袖（かたそで）式と両袖（りょうそで）式に分けられます。

平群谷では6世紀前半に片袖式から両袖式に変わりますが、袖の幅も新しくなるにつれて狭くなります。

また、使用される石材も自然のものから加工した切石へと変化します。

平群谷に分布する古墳の石室は大小・新旧あり、その形態変化を知ることができます。

平群の古墳は、横穴式石室の展示場と言ってもよいでしょう。



烏土塚古墳
横穴式石室（両袖式）